

自 平成26年4月 1日
至 平成27年3月31日

公益財団法人 ハーモニィセンター

平成26年度

事業計画書



公益財団法人ハーモニィセンター
〒151-0052 東京都渋谷区代々木神園町3-1
独立行政法人国立オリンピック記念
青少年総合センター内
電 話 03-3469-7691
FAX 03-3469-7714

目 次

—はしがき—	… 2
1 ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理	… 2
1-1 ポニートレーニングキャンプ	… 2
1-2 小貝川三次元プロジェクト	… 3
1-3 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ	… 3
1-4 相馬ポニー牧場・ポニークラブ	… 4
1-5 子ども動物広場	… 5
2 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及	… 8
3 川べり環境の整備及び活用の推進	… 9
4 国際文化交流、技能実習生受入等の推進	… 9
5 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信	…10
6 その他	…10

はしがき

昨年、公益財団法人の歩みと並行して運営方針、組織編成、会員制度、広報手段など、新役職員の手で、おおむね新法人の活動体制が整い、「Riding for All」（ハーモニセンター総合パンフレット）にまとめ、広く頒布作業を行うに至った。

ハーモニセンターの使命は、「国民の心身の健全な発達及び豊かな人間性の涵養に寄与する社会教育事業を行っていく」こと。言葉をかえると、「人が人として育っていく上で、家庭や学校だけでは学びきれない大切な体力、知識、技術や、やさしさ、自信、感動、勇気、我慢、努力、責任感などの内面性の力を育てていく活動に、ハーモニセンターが責任の一端を担う」ということ。障害の有無にかかわらず、子どもから大人、高齢者の参加（利用）者に対して、これまで以上に明確な目標を持った事業活動の実現に力を注いでいく。

これまでのポニー、小動物、自然環境をフルに生かした独自の取り組みはもちろん、他の自治体、事業体、異業種との取り組みから、双方にとっても、更なる新しい世界の開拓となる連携の実現に取り組んでいく。

長期の安定した活動の土台となる会員獲得の成否は、あらゆる媒体を活用しいかに効果的な広報活動ができるか。日々の実践活動に高い評価と賛同を得る努力を続けることができるか。直接活動を担っている職員、ボランティアの質の高い育成がなされているか。そして何より人々から期待され日本中から賛同者、協力者が集まる「健康で、学びが深く、感動に満ち、幸福な社会を広げていくスケールの大きな夢」の提示と第一歩の踏みだしであろう。いついかなる時も、常にこうした夢の実現を心に秘め、会員、役職員一丸となって、取り組んでいく。

○重点項目・要点

①「利根川下流域河川騎馬パトロール」試行、推進

利根川下流域河川事務所との「騎馬合同巡視の試行に関わる覚書」に基づき、乗馬プログラムで河川空間が人で賑わう環境作りの活動。それに伴う産業振興、人材育成、雇用促進などの視野を持ち、中長期的に吉野川（四国）、筑後川（九州）、十勝川（北海道）など全国の河川に拡げていこうとするもの。

②「軽乗」種目の推進

2015年3月、ドイツ（シュタインフルト郡）軽乗連盟会長、コーチを招聘予定。帯広畜産大学土浦スポーツ健康クラブ、大崎市（鳴子）など各地の団体に呼びかけ、指導のデモンストレーション、フォーラムの共同開催を呼びかける。平行してハーモニセンター各事業所の乗馬プログラムで、「軽乗」の基本トレーニングを推進し、基礎的な知識、技術の習得、子どもの育成をはかる。

③「北海道帯広ポニーキャンプ」実施

帯広市、帯広畜産大学、シルバーサービス帯広と連携し、十勝平野を舞台に乗馬をテーマにした夏の長期キャンプ。子ども乗馬交流、ホームステイなど、馬を通じた交流キャンプ。

④「ポニー乗馬総合センター」の建設

首都圏近郊で「蓼科牧場」と「ポニースクール」の機能を併せ持ち、子どもから高齢者、障害児者誰もが馬に親しみ、交流できる新たな拠点候補地の情報収集にあたる。可能な限り早期に決定し、実現に向け作業を進めていく。

⑤施設改修、補修

「蓼科牧場」「小貝川牧場」の老朽化に対して、すみやかに適切な改修、補修作業を進める。

⑥人材育成

公益財団法人職員、ボランティア（カウンセラー）が、社会人として望ましい考え、行動、判断のできるバランスのとれた人材となるべく必要な知識、技術の習得、意識の向上を図っていく。また同時に、必要に応じた特定分野の専門家の育成にも力を入れていく。ハーモニ内外での研修、交流の機会を生かし、特に外部の優れた活動、人材との交流から学ぶ機会を増やしていく。

⑦その他

1 ポニークラブ、子ども動物広場、牧場等の運営及び受託管理

1-1 ポニートレーニングキャンプ

一年を通して、5才から15才までの子どもたちにポニーとのふれあいを軸とした数々の自然体験活動を提供する。子どもたちは、同行するキャンプカウンセラー（ボランティアの青年たち）と共に、数日間の異年齢集団生活の中で喜びを持って気力・体力・技術を磨き、強い心、他者に対する思いやりの心を培っていく。

前年度、公益財団法人として新たな一歩を踏み出し、会員制度も改定したことから、今年度のキャンプ事業には例年以上に新規会員、新たな理解者の獲得につながる実施方法、体制、そして参加者とその家族に高い満足感をもたらす質が求められている。

このため、泊数が短く、低価格の入門キャンプと、最も参加者の多い夏休みキャンプを増やし、ブログ、SNSを活用して活動中の子どもたちの様子やキャンプの理念、参加者アンケート等に基づいたキャンプ参加の効果等を積極的に発信していく。質向上のためには、外部講師、講習会を有効活用しながら、新たな視点を取り込み、資格取得も見据えた職員、カウンセラーのトレーニングに力を入れ、季節に応じた自然環境を生かした多種多様なプログラムの開拓を進めていく。同時に、参加者の怪我、病気対応を中心に指針を整備し、繰り返しの確認を習慣づけ、ばらつきのない、きめ細かな参加者対応を目指す。

【平成26年度 主催キャンプ目標】

	実施回数	延べ泊数	参加数	
			子ども	大人
長期	22回	74泊	920名	0名
短期	16回	26泊	260名	50名
受託	19回	53泊	240名	5名
日帰り	1回	0泊	60名	40名
計	58回	156泊	1,240名	165名

事務局体制 職員 3名 登録カウンセラー数 260名
過去3年の実績

年度	実施回数	延べ泊数	子ども	大人
22年度	58回	134泊	1,171名	463名
23年度	56回	145泊	1,011名	372名
24年度	60回	159泊	1,108名	414名

1-2 小貝川三次元プロジェクト

「子どもから高齢者までが楽しめるフィールド」として発足以来12年の地域に根ざした積み重ねから「河川パトロール」活動拠点の役割が加わり、新たな段階に入る。

事業内容も従来の牧場運営と、さらに小貝川、利根川下流域にまたがる広範囲を視野に入れた「河川空間での人の賑わいを増やしていく」様々な取り組みを行っていく。

【事業内容】

- ① 馬部門
 - ・乗馬レッスン
 - ・河川敷外乗（引き馬～駈歩レベル）
 - ・移動乗馬教室
 - ・ポニー教室（日曜・祝祭日 10:00～17:00）
 - ・団体教室
- ② 川部門
 - ・カヤック教室（5月～9月・月1回）
 - ・川遊び体験教室（子どもの水辺安全講座を含む）
- ③ ふれあい（小動物）
 - ・移動動物園（保育園・幼稚園）
- ④ MTB（マウンテンバイク）
 - ・親子の参加型自然体験イベント（年3回）
- ⑤ 小貝川生き生きクラブ管理受託運営
- ⑧ 川の資機材管理・受発送（NPO法人川に学ぶ体験活動協議会業務受託）

1-3 蓼科ポニー牧場・ポニークラブ

昨年度より引き続き5ヵ年計画で「人と馬の文化の普及・創生」をテーマとした活動に取り組む。普及に関しては、他団体・一般利用者のための利用しやすい体験コースを設定。施設老朽化にともなう補修計画、長期研修者用の宿泊棟建設計画をすすめる。

【事業内容】

- ① ポニーキャンプ（主催事業）
 - ② ボランティアリーダー研修。（カウンセラー、他団体リーダー）
 - ③ 蓼科乗馬会（年9回実施）

週末金曜日～日曜日にかけての宿泊型。外部より招いた上級指導者資格保有インストラクターによる基礎・応用練習で、また初心者は、牧場内林道ミニトレッキング、馬場での経路練習など、楽しみながらのレッスンで技術向上を図る。
 - ④ 蓼科ポニークラブ（月2回日曜日、午後）

地元小中学生を対象としたポニークラブ活動。家族での参加を原則とし、保護者にも乗馬体験の機会を設ける。
 - ⑤ 他団体日帰り・宿泊乗馬体験（障害者グループ等）
 - ⑥ 移動乗馬教室
 - ⑦ 引き馬・乗馬レッスン
 - ⑧ 乗馬技能・馬匹管理研修（ハーモニィ職員）
 - ⑨ ポニー・馬の繁殖、調教、育成（事業所連携）
 - ⑩ わんぱくポニー村
- （5月連休・夏休み・9月連休期間、蓼科湖畔での引き馬・小動物ふれあいイベント）
- ⑩ 研修受け入れ（他団体、個人、修学旅行、リエンションなど）
 - ⑪ ハーモニィセンター蓼科ホースショー（新規）

【主旨】 ハーモニィセンター会員相互の交流と、乗馬技能向上を目的としてハーモニィセンター内部で乗馬大会を開催し、保護者の方々にも応援いただき、ハーモニィセンターへのご理解・ご支援につなげてゆく。子供達に、普段の練習の成果を発表する場所を提供する。

【効果】

- ① ハーモニィセンター各動物広場活動メンバー、ポニークラブ会員、キャンプ参加者が一同に会し、お互いに乗馬技術を披露することにより、刺激を受け、日常の練習により熱心に取り組むようになる。

- ② 各現場スタッフの指導技術の向上、意欲の増加。
- ③ 子ども達を送り出して頂く、ハーモニイセンター最大の支援者である保護者の方々が、保護者間、あるいはスタッフとの交流により、ハーモニイセンターの活動にさらなる理解を拓げる機会とする。

1-4 相馬ポニー牧場・ポニークラブ

相馬ポニー牧場は東日本大震災による被災、福島第一原子力発電所事故後の放射線災害において本来の自然体験活動の提供の場から、子供たちや青年たちの笑い声を失ってしまっている。地域社会にある相馬ポニー牧場の再開への期待は、自らの置かれている状況を打ち破りたいという思いの表れのようなのである。

相馬ポニー牧場では、再開を目標に掲げ、引き続き地域社会と連携した再生のための環境整備活動を進めていく。尚、相馬ポニー牧場を生活の場と考慮された生活圏除染は平成25年度末までに終了する。

【事業内容】

1. ポニーを中心とした事業活動
 - ① 主催事業 東北支援活動「子どもたちに笑顔を贈る事業」を継続する。
 - ② 支援活動から交流事業への転換並びに交流事業を具体的に推進する。
 - ③ 福島県内をはじめ東北の市町村と連携したポニー移動教室を実施する。
 - ④ 事業活動を支える仙台地区のカウンセラーとの連携及び研修活動を推進する。
2. 施設の利活用
 - ① 被災・避難動物受入れ団体への施設利用を継続する。
 - ② 復興事業へ参加する団体・ボランティアのための活動拠点とする。
 - ③ 地域社会の復興再生プログラムにおける活用（除染物質の仮置き場）を継続する。
 - ④ 地域の活動団体との連携による施設利用を進める。
3. その他
 - ① 活動推進のために震災で壊れた施設の補修を行う。
 - ② 遊休施設の整理を行う。

1-5 子ども動物広場

こども動物広場（ふれあい動物広場、動物園）の運営は、全て各自治体とハーモニイセンターとの間で交わす契約書・仕様書（委託）、協定書（指定管理者）に基づいて行われる。

【施設概要一覧】

	所管課	面積等	飼育動物	職員数
碑文谷	都市整備部みどり公園課	3,310 m ²	ポニー6頭・ウサギ・モルモット・アヒル・犬	6名
水元	教育委員会地域教育課	3,000 m ²	ポニー15頭・チャボ・鶏（15羽）	10名
相模原	環境保全部公園課	15,000 m ²	ポニー16頭・ヤギ・ヒツジ・モルモット・ウシ・ブタ・リスザル・アライグマ・シマリス・ミーヤキヤット・ハイラックス・シカ・ウサギ・鳥類・クジヤク・チャボ	17名
万騎が原	財団法人横浜市緑の協会	14,000 m ²	モルモット・ヒヨコ・アヒル・日本鶏・ハツカネズミ	3名

板橋 3園	土木部 みどりと公園課	本園 1,907 m ² 高島平分園 583 m ² 昆虫舎 1,814 m ²	ポニー4頭・ウサギ・モルモット・ヤギ・シカ・ヒツジ・フラミンゴ・クジャク・カメ・鳥類・昆虫	11名
海老名	市民協働部文化 スポーツ課	2,014 m ²	ポニー	3名
上千葉	都市整備部 公園課	2,100 m ²	ポニー5頭・ヤギ・ミニブタ・ウサギ・シマリス・リスザル等	6名

1-5-1 碑文谷公園こども動物広場（ポニー園）

開設以来32年間の運営を続け、今後も障害の有無にかかわらず、「動物とのふれあいを軸にした子供の心身の育成」の役割を果たして行く。

碑文谷公園クラブやスポルテ目黒との連携で地域貢献をはかり、ポニー祭りの他、親子乗馬イベント等の回数を増やし、子どもたち、保護者、地域住民らが積極的に動物広場と関わりあえる機会を推進する。職員は、ファシリテーターとしての役割を担い、そのための研修に力を注ぐ。

またポニー教室の魅力あるカリキュラムづくり、施設等の軽修繕に力を注いでいく。

上記の目的の達成の為、下記の事業を進める。

【事業内容】

- ① ポニー引き馬乗馬
- ② ポニー教室(団体：障害児・幼稚園・保育園・学校・一般)
- ③ ポニー教室(個人：年4期)
- ④ 小動物とのふれあい
- ⑤ 動物クラブ(動物飼育体験クラブ)
- ⑥ ポニーまつり(年1回)
- ⑦ ポニー飼育教室(大人向け)
- ⑧ 障害児乗馬サイドウォーカー講習会(地域ボランティア育成)
- ⑨ 親子乗馬イベント
- ⑩ 施設等の軽修繕

1-5-2 水元中央公園子ども動物広場（ポニースクールかつしか）

夏の「モンゴル遊牧民生活・ナードム競馬体験」、春の「日独乗馬・軽乗交流」が、子供達の目標として定着。「教室指導心得十七ヶ条」を基本においた日々の活動に取り組み、目標達成に向け応援していく。

- 「第2回 軽乗フェスティバル」開催

「日独乗馬交流・軽乗交流」実施年に開催。健常児・障害児全学年参加型の軽乗大会。

- 乗馬教室での取り組み

反復練習を基本とした、子どもの心身を鍛えるための様々な課題を与えていく。

- ① 体力の向上：マラソン、マット運動、跳び箱、縄跳びの体操種目を活用
- ② 知識の向上：行事・土曜学習・教室終了後を活用し、モンゴル語、ドイツ語、英語に親しむ機会を増やす
- ③ 興味・関心の向上：ドイツスタイル軽乗の技の開発、習得。

【事業内容】

- ① 引き馬乗馬(乳幼児、小学生)
- ② 乗馬教室(健常児、障害児、不登校生徒)
- ③ 乗馬教室(団体：幼稚園・保育園・特別支援学校・障害児(者)団体)
- ④ 土曜学習
- ⑤ 軽乗演技披露(年3回)
- ⑥ 各種特別行事(子ども祭り(8月)ポニー大運動会(11月)新入生保護者懇談会(11月)クリスマス音楽会(12月)軽乗フェスティバル(3月)・皇居マラソン(12月)卒業式(3月)誰でも乗馬会(年2回))

- ⑦ ホームページによる広報活動、日常活動内容紹介（年間2万人閲覧）

1-5-3 相模原麻溝公園ふれあい動物広場

26年度は指定管理を更新しての初年度となるため、今後の契約期間（H26～30までの5年間）を消化する上での基準となる年である。

相模原市との連携は元より、一層の信頼関係を築くべく努め、前契約期間よりもさらに高い成果をあげる自助努力が必須となる。創意工夫を信条に良きものはより良く、不足しているものは足し、柔軟性を損なうことなく、発展・進化のある一年を目指す。

【事業内容】

- ① 小動物とのふれあい（ウサギ・モルモット・ヤギ・ヒツジ）
- ② ポニー引き馬乗馬
- ③ 親子ポニー引き馬乗馬
- ④ 動物イベント開催
- ⑤ 親子ポニー教室（子育て支援）
- ⑥ ポニーボランティアの活動
- ⑦ ポニー乗馬教室
- ⑧ 障害児ポニー乗馬教室
- ⑨ 搾乳体験
- ⑩ 展示動物飼育管理
- ⑪ 動物クラブ（飼育体験クラブ）活動
- ⑫ 動物フェスティバル（春・秋）
- ⑬ 出張乗馬教室
- ⑭ 団体利用ふれあい教室（幼・保・小学団体）

1-5-4 万騎が原ちびっこ動物園（野毛山動物園分園）

飼育体験キャンプ、梅の花祭り、真冬イベントの実施・参加を計画しております。

尚、現在においてもモルモット・ハツカネズミ・ヒヨコ・鶏の小動物のみで、ポニーの導入、それに関連してポニークラブ、動物クラブの設立は実現しておりませんが、中期的展望の観点からあらゆる糸口を模索していく考えであります。

【事業内容】

- ① 小動物とのふれあい
- ② 展示動物の飼育管理
- ③ イベントの開催（ポニー乗馬、工作教室など）

1-5-5 板橋こども動物園（本園・分園） 昆虫公園

26年度は基本に立ち返り、こども動物園をより地域に根差した施設としての機能を追求し、『区民のコミュニケーションの場』としての価値を高める。

好評を得ている出張ふれあいは、小学校向けに動物の生態についての話等、ポニー・山羊・モルモットを使用したプログラムを行ってきたが、プロポーザルの年となる26年度からは1、2年生の生活科の授業の一つとなるようプログラムに工夫を加え、生態の話だけではなく、動物の「食」「暮らし」「体」と3種類用意して、より動物についての理解と動物と接する際の優しさを、話を「聞く」ことに「触る」ことをプラスしてより多角的に行う。

【事業内容】

- ① 小動物のふれあい（ウサギ・モルモット・山羊・羊）（本園・分園）
- ② 引き馬指導員付ポニー乗馬（本園通年・分園年5回）
- ③ 展示動物の飼育管理（本園・分園）
- ④ ポニー教室 年5回（本園）：4月～12月まで。1クール5日間。
- ⑤ 馬車の運行（本園）：毎月1回
- ⑥ 幼稚園・保育園・小学校・障害者団体等の受け入れ（本園・分園）：モルモット抱っこ・引き馬

- ⑦ 出張ふれあい教室(本園)：概ね年10回。使用動物はモルモット・ウサギ・山羊・ポニー
- ⑧ 動物クラブ(飼育体験クラブ)の指導・運営(本園・分園)：小学校3年生～中学生まで。休園日以外活動可能 時間 開園～閉園時まで。
- ⑨ 動物園祭り(本園)：10月 日常業務に加え、2人乗り引き馬・羊毛クラフト・動物ペンダント。
- ⑩ 冬のミニイベント：12月～2月毎週日曜日(分園) 分園は狭い上に公園の奥にあるため、冬の閑散期にこのような入園者増を狙ったプログラムが必要となる。 内容 羊毛クラフト・引き馬・動物ペンダント
- ⑪ 昆虫ガイドツアー：月1回(昆虫公園) 公園内昆虫をスタッフと探して観察するプログラム。
- ⑫ 昆虫標本教室：月1回(昆虫公園) 子ども達にも作りやすいカブトムシの標本を作製する。
- ⑬ 昆虫公園冬のワクワクプログラム月1回(昆虫公園) 虫のいない冬にスタッフの簡単な工作などのプログラム

1-5-6 海老名ふれあい動物施設

仮設でのオープンから3年が経ち、リピーターの定着が実感される。26年度はさらにリピーターを増やす為に、平日の来場者の少ない時間を利用した企画や掲示等の提案、実行に特に力を入れていきたい。

また、26年度は小動物を導入するため、動物の派遣については小学校や民間の幼稚園、保育園など、より広範な派遣先のふれあい事業の希望に応えられるようになる。また、企業や個人など様々な依頼を受け入れられる形を作っていく。

【事業内容】

- ① 馬車の運行
- ② 引き馬ポニー乗馬
- ③ 子どもポニークラブ
- ④ 小動物とのふれあい(ウサギ、モルモット、山羊など)
- ⑤ 各種イベントへの出張活動
- ⑥ 幼稚園・保育園・学校等の団体プログラム
- ⑦ 飼育体験ツアー
- ⑧ 物産品、関連グッズの販売

1-5-7 上千葉砂原公園ふれあい動物広場

昨年10月、平成28年9月までの3年間の契約更新をした。業務内容としては接遇の研修を行う等、利用者に対しての点が加わり、全般的に細かく事業内容が決められている。

施設は開設後間もなく30年が経ち、老朽化が激しく、自ら補修をするなど、こまめな管理が要求される。この点には積極的に取り組んでいきたい。

【事業内容】

- ① 動物の管理
- ② ふれあいコーナーの実施
- ③ ポニーの引き馬による乗馬
- ④ 動物愛護クラブ
- ⑤ ポニー教室、年間3回
- ⑥ 障害者・高齢者施設への出張動物園
- ⑦ 職場体験(中学生・高校生)
- ⑧ 施設の保守・管理

2 教育、福祉、医療等の現場におけるポニー乗馬の普及

2-1 グランドポニースクール（新潟県長岡市）

今年度も引き続き2週間にわたる長岡市内の小学校、高齢者施設での巡回乗馬教室（グランドポニースクール）の実施が決定。日程については調整中。（長岡市子ども家庭課からの委託）

2-2 帯広畜大プロジェクト（仮称）

昨年、帯広畜産大学主催で「馬を活用した教育・福祉・地域貢献」をテーマに、「馬フォーラム」に関わる一連の取り組みが開始された。それに呼応し、「障害者乗馬講習会講師派遣」「ちくだい馬フォーラム、軽乗演技チーム派遣」を実施。それに伴い帯広市役所、シルバーサービス帯広、畜産、教育、福祉関係者との交流が深まった。さらに平成26年度は、まず十勝平野を舞台とした「高学年向け乗馬交流キャンプ」を実施し、新たな相互交流の発展をめざしていく。

【事業内容】

北海道十勝帯広ポニーキャンプ（夏休み 10泊程度）

帯広畜産大学、帯広市、シルバーサービス帯広らの協力を得て、乗馬をテーマにした自然体験、交流キャンプ。

- ・帯広畜産大学構内での乗馬、軽乗、外乗体験
- ・瓜幕ライディングパーク子ども乗馬交流
- ・障害児者、高齢者との乗馬交流
- ・軽登山、サイクリング、アイススケート体験
- ・ホームステイ 他

3 川べり環境の整備及び活用の推進

利根川下流河川事務所（所長）との「利根川下流域河川騎馬巡視に関する覚書」に基づき、平成26年度から「河川空間に人の賑わいをとりもどす」ための活動として、利根川河川下流域「河川パトロール」活動の第一歩を進める。新たな拠点準備されるまで、当面小貝川牧場を拠点とし活動を開始する。

【事業内容】

- ① 「河川パトロール隊」の流域団体、施設、個人説明会、募集PR活動
- ② 運営資金獲得の研究、獲得
- ③ 月数回のパトロール活動（河川巡視）
- ④ 移動乗馬教室開設（拠点、河川空間、各種教育福祉施設など）
- ⑤ 河川流域関連イベント参加
- ⑥ 河川流域関連学習、研究会
- ⑦ インストラクター養成、馬の調教。
- ⑧ 他の河川流域への啓蒙、需要開拓
- ⑨ 地域産業振興のための研究開発
- ⑩ その他

4 国際文化交流、技能実習生受入等の推進

4-1 モンゴル

下記の日程で「モンゴル大草原乗馬交流キャンプ」を5コース実施する。

日本からの参加者が、モンゴルの大草原を思う存分乗馬を楽しんでもらうことと、現地で乗馬インストラクターから食事の世話まで担うモンゴル文化教育大学の学生との交流を通して、理解を深め、1人でも多く今後も広がりを見せるモンゴルとの活動の支援者になってもらえる目的を持って推進する。

今年は各コース1週間の滞在中、全員でバンガロー1泊遠乗り、湯治温泉地を訪れる企画を検討。「遊牧民生活体験ナーダム子ども競馬」に6回目の派遣を行う。

- ① 7月15日～22日 (一般)
- ② 7月22日～29日 (一般)
- ③ 7月29日～8月5日 (一般)
- ④ 8月5日～8月12日 (一般・No6 ナーダム子ども競馬)
- ⑤ 8月12日～8月19日 (一般)

4-2 日独青少年相互交流計画

4-2-1 青年チーム受入(10～11月)

日本とドイツの青少年がお互いの国を行き来し、異文化にふれることによって、青少年の国際的視野を育てることに目的を置いている。隔年で派遣と受け入れを交互に行っており、今年度は受け入れの年となる。

本事業開始時からのパートナーである大崎市鳴子国際交流協会と合同で、ドイツ参加者を受け入れる。キャンプ事業である蓼科ファミリーキャンプへの参加を中心に、大崎鳴子でホームステイを交え、参加者の希望によって活動を構成してゆく。

日程 2013年10月下旬

人数 最大15人

対象 16歳～30歳の青少年。

4-2-2 軽乗指導者招聘(2015年3月下旬～4月上旬)

軽乗コーチ、ラドベルゲン軽乗連盟会長の2名を招聘。訪日滞在に合わせて、下記に力点を置き1年をかけて受け入れ準備を整える。

- ① ハーモニィセンター内外への軽乗の普及、推進
- ② 障害児者、高齢者乗馬の普及、推進
- ③ ハーモニィセンター内外での講演会、デモンストレーション開催準備
- ④ ホームステイ先募集
- ⑤ 歓迎交流会 (ポニースクール・各地)

5 新聞、雑誌、図書等の刊行及び電子媒体による情報発信

公益化に伴い機関紙のあり方も変えていこうと、方向性を探るためにH25年度は休刊していた機関紙を、『機関誌』として発行を開始する。発行ペースは3か月に1度(4月、7月、10月、1月の各1日)を予定しており、内容も、これまでのキャンプ・イベント案内を中心とした構成ではなく、教育を中心とした活動理念の啓蒙に重点を置く。

一方、キャンプ・イベントの案内に関しては、機関誌とは別に、「キャンプレター～^{かなで}奏～」をキャンプの日程に合わせて年5回(発行日は5月、8月、10月、1月、3月の各1日)発送する。いずれもこれまでのモノクロからフルカラーにし、写真からも読み手の気持ちをかき立てる構成にしていく。

また、これまで同様、WEBでの広報にも力を入れる。ホームページの刷新を図り、キャンプのネット申込み等を導入することで、参加者の利便性向上を図る。紙媒体の広報と比べリアルタイムな情報発信ができる強みを生かし、ハーモニィセンターの活動に関心のある人たちへ硬軟合わせたアプローチをしていき、活動に参加したくなるしかけ作り、情報提供を心掛ける。

6 その他

6-1 ツリークライミング

ツリークライミングの手法を用いて体験活動の提供、人材育成、樹木管理、環境整備を行うと同時に他事業にない独特な人的ネットワークを展開する。

【事業内容】

- ① オリンピックセンターにおいて講習会を12回開催。受講生の見込みは40～50名。
- ② 川口市立戸塚南小学校を中心とした子どもたちへの体験提供。年6回。参加見込約200名。
- ③ ツリークライミングジャパンを中心とした他団体プログラムへのサポート。
- ④ 板橋、昆虫公園を中心としたハーモニセンター関係施設の樹木管理。
- ⑤ 小貝川3次元プロジェクトでの「空」部門プログラム提供とフィールド整備。
- ⑥ スタッフ研修（ライセンス講習会受講）

6-2 長瀬げんきプラザJV

他団体とのJV、長瀬教育振興グループに参加することにより、JVに関するノウハウを収集すると同時にハーモニセンターが有利に利用できるフィールドを確保する。

年9回の運営会議に職員を派遣し、集客、プログラム開発、リスクマネジメントに関する助言を行う。

6-3 新たな拠点「ハーモニ、ポニー乗馬総合センター」づくり

2011年の震災以降、相馬ポニー牧場の機能が停止し、ポニーの調整や資材の保管等、ハーモニセンターの活動全体を支える新たな拠点が必要となってきた。また代替え拠点としてだけでなく、ポニー導入時より課題であった、ポニークラブの本格的な運営や、ポニークラブ協会設立につなげてゆく。

【事業内容等】

- 1 ポニークラブの運営
- 2 ポニーの調教、高齢化や資質の改善、季節に応じた馬の頭数の調整、繁殖、育成・調教・販売・各施設への補充
- 3 スタッフの養成
- 4 他の施設へのサポート（飼料一括購入・管理、資材、ボロの処理等）。
- 5 移動乗馬教室の拠点

6-4 馬の管理について

馬の全体管理をする組織と責任者を決め、予算を立てて馬の更新を図ってゆく。併せて、職員に新馬調教の経験を積ませる。

6-5 人材育成

6-5-1 職員

個々人の長所を生かしあったチーム作りと離職率の低下を目指し、外部講師の力を活用しコミュニケーション力を上げてゆく。定期的に調査を行い効果を測定する。

6-5-2 ポニーキャンプカウンセラー研修

キャンプを中心とした、ハーモニセンターが主催する全ての事業に参加する青少年を対象とする。対象年齢は18歳以上。活動を通じてハーモニセンターの活動趣旨を理解・体感・賛同し、技術を習得する事から、積極的に活動を推進する一員として成長することを目的とする。

① 宿泊研修会。

	研 修 会 名 称	実 施 期 間	会 場	参加数
1	新人カウンセラー牧場実習会	6月14日～16日	蓼科ポニー牧場	10名
2	新人カウンセラー牧場実習会	7月12日～15日	蓼科ポニー牧場	15名
3	総合研修会	11月29日～12月1日	蓼科ポニー牧場	12名
4	総合研修会	2月7日～11日	蓼科ポニー牧場	20名
5	総合研修会	2月21日～24日	蓼科ポニー牧場	20名
	計 4回	延べ14泊		80名

② 日帰り研修会

各種技術（ギター、レクリエーション、プログラム作り、ポニーの扱い、野外炊事技能等の自然体験活動、安全管理等）の習得及びカウンセラー同士の相互理解を目的とする。（会場は国立青少年センター、動物広場など）

6-5-2 指導者育成講座の開催

小貝川ポニー牧場において、講座を開催し、川の指導者を養成する。

6-6 他団体との連携等

6-6-1 役員等派遣

公益社団法人全国乗馬倶楽部振興協会、NPO法人自然体験活動推進協議会、川に学ぶ体験活動協議会、公益社団法人日本キャンプ協会に役員を派遣する。